

實相寺 花園會報

令和五年
三月一日発行
發行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園會
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL.087-889-3838
編集發行人
山本文匡
https://www.jissouji.net

第167号

お寺の掲示板

「ただその生滅の度合いが実に速いので、私たちにはずっと同じ場所で同じ状態であるように見えています。」

しかし心というものは、いのちと言っても同じですが、昔の蛍光灯のようなものです。
〜中略〜

この無常の真理があるがままに受けとめて、一瞬一瞬、一日一日、このいただきたいのちを生きていく他にないのです。」

『ある日の法話より』いろいろはこぼへと』より

「無常」といいますと
ものが移り変わり
形あるものが滅びていくと
私たちは思いますが、
お釈迦さまの悟りから申すれば、
心というものは一念、瞬一瞬、
生じては滅していき
「無常」であります。
鎌倉円覚寺横田南嶺管長
「心はこぼへと』より

妙心寺派宗議會

住職の資質か過剰兼務か

和歌山 税務事件 当局と議員で応酬



住職を増やす施策の重要性を語った野口総長

週刊仏教タイムス

(第三種郵便物認可)

臨濟宗妙心寺派は17日の3日間、京都市右京区の宗務本所に第144次定期宗議會を招集した。令和5年度予算のほか、法規議案では選挙規程・教師規程の改正(宗教法人以上の欠格事項案項改正による選挙権・被選挙権の制限の文言改正)、2027年に迎える微妙大師六百五十年遠講大法会の事務局規定の制定などが上程され、議案を原案可決した。野口善敬宗務総長は初日の施政方針演説で、1日31日に朝日新聞などが報じた、大阪国税局が和歌山県の妙心寺派寺院の住職(代表役員)2人に対し「兼務寺院の布施の私的流用」を指摘し追徴課税をした件について触れ、「もちろん言い分はあるのでしようが、社会的

には紛れもない不正行為であり、宗門の寺院でこのような事件が起こったことに對し、誠に腹立たしく、慟悔の念に堪えません」と表明。禅宗で重視される「証道歌」を引き、僧侶一人ひとりが標を正すことを願った。この税務事件に關し、2日目の通告質問で山本文匡議員(四国東教区)が発言。2人の住職がそれぞれ7・8カ寺を兼務する状況で、適切な会計処理を怠ったことは当人たちの瑕疵であり、その責任を免れるものではないと前置きした上で、「そもそも1人の住職が7・8カ寺を寺院規則通りに運営することは可能なの

か?」と疑義。過剰な兼務をしていると責任役員會を適切な時期に開くことも無理があると述べ、さらに「多数の寺院を兼務する住職の任命については本派が行った訳ではないから、被兼務寺院の適切な法人運営については任命権者である本派にも一定の責任があったのではないかと問うた。答で野口総長は「本派の中で何か問題が起り始めたそれは当然、行政のトップにおります私の責任」とし、慟悔したる思いを吐露。「一つのお寺に1人の住職がおられるのが正常な状態」と過剰な兼務が問題を惹起することを認め、安居會や

「第二の人生プロジェクト」な住職を増やすための施策。さらに僧侶の統合・整理の必要性も實質向上が切実だとした。山本議員はそれらの意義を認めつつ、人口減少、寺院経済状況の悪化の中で「住職を増やす」という方向での対策は難し

去る二月十五〜十七日に行われた妙心寺派宗議會での住職の通告質問が「仏教タイムス」二月二十三日号に取り上げられました。

今後、兼務住職や被兼務寺院の増加に伴い、法人の統合同必要ではないか?、と質問しましたが、恐らく議會で法人の統合に触れたのは始めてだと思えます。

「迷いの中に光を見出す(一)」
令和五年度の花園会推進テーマは
「おかげさま 迷いの中に光を見出す
―煩惱無尽誓願断―」です。

これは昨年の「おかげさま 向き合
い寄りそう―衆生無辺誓願度―」に続
くもので、『四弘誓願文』の四つの誓願、
すなわち衆生無辺誓願度（衆生は数限
りがないけれど誓ってこれを救おう）、
煩惱無尽誓願断（煩惱は尽きないけれ
ど誓ってこれを断とう）、法門無量誓
願学（仏の教えは沢山あるけれど誓っ
てこれを学ぼう）、仏道無上誓願成（仏
道はこの上ないけれど誓ってこれを成
就しよう）のそれぞれを毎年一つずつ
テーマに据えた二年目となります。

そして、それぞれにサブテーマが設
けられているのですが、それが今年度

貧困から抜け出せないまま年を重ね、
今や行政や民間の支援に頼るしかない
が、支援にも要件や限度がある。

そんな時に私がつくづく感じるのは、
「だからこそ、転ばぬ先の杖が大切な
のだ」ということです。誰にだって挫
折や失敗はあります。嫌になつて会社
や学校には行きたくなくなることもあ
ります。そんな時はしばらく休んだり、
時には転職したりなど必要でしょう。
でもそんな時でも、生活のルーティン
は崩さないことが重要だと思います。

私自身、大学生時代は気ままな一人
暮らしでしたので、昼夜逆転すること
もありました。そうするとどうしても
怠惰な生活になりがちです。「明日は
ちゃんと起きて一限目から学校に行こ
う」と思って寝ても、目が醒めるとお

は「おかげさま 迷いの中に光を見出
す」なのです。

しかし「迷いの中に光を見出す」の
はけして簡単なことではありません。
いやむしろ、真つ暗闇で光が見えない
からこそ人は迷うのであり、薄明かり
でもあれば自ずと進んでいけるのです。
「本山も随分と難しいことを言つたな
」
というのが率直な私の印象でした。

令和元年の九月から、ほぼ毎月一度
「グリーンフワーク香川」の自殺予防土
曜ホットラインを担当していますが、
時々「これはなかなか難しいな」と思
わされる相談があります。誰も悪くな
い。本人も悪くないし、家族も悪くな
い。強いて言えば運が悪かつたのでし
ょうか。一寸したきっかけで病気にな
つたり、仕事を辞めたりしたために、

昼近い、なんていうこともありました。
そうするとその日一日「もういいや休
んじやえ」となつてしまします。それ
が積み重なつて留年、退学という人も
居るのではないでしょうか。

どんな時でも規則正しい生活を心掛
けること。ちゃんと朝起きて、夜は早
めに就寝する。食事の時間や入浴や部
屋の掃除なども定期的に行う。こうい
う生活習慣が身に付いている人は、た
とえ一旦社会から離れたとしても、又
復帰できるような気がします。何故な
ら生活の中に「社会性」があるからで
す。でもそれが身に付いていない人は
昼夜逆転した生活が続けがちです。

ですからまずは家庭を持ったならば、
親自身が規則正しい生活習慣を心掛け
ることが大切だと思います。(続く)